科目名			担当教員	
医学概論			石井　誠一・澤田　さやか	
科目コード	科目単位	スクーリング単位	履修方法	配当年次
CB3078	2	1	RorSR (講義)	2 年以上
生成 AI 利用レベル		レポート　：　B	試験（スクーリング含む）　：　B	

※スクーリングを別教員が担当いたします（井手貴治先生）。

科目の概要

■科目の内容

社会福祉関係職種に従事する人にとって、生活支援技術の根拠となる人の身体構造と心身機能について理解することは不可欠です。人体や老化、疾病などの医療の基礎的な知識を持つことは、利用者の医療を一緒に考え、安全な介護サービスを提供できるためだけでなく、私たちがより健康的に生活するためにも大切です。

本科目では、基本的な人体の構造と機能を理解したうえで、ライフステージにおける心身の変化にともなう健康と疾病のとらえ方について理解します。また、直面する頻度の高い障害や疾病について医学的に理解し、人々の健康に及ぼす要因や健康課題を解決するための対策を考えます。

本科目は、予防対策や行政の取り組みなど、医療にかかわる広範囲な内容を含みますが、障害、リハビリテーション、国際生活機能分類（ICF）など、他の科目と重複する分野については、レポート課題には入れませんでした。しかし、非常に重要な分野ですので、教科書をしっかり読んで、医学概論で学んだことと結び付けて考えられるようにしておいてください。

■到達目標

1）生活支援技術の根拠となる人体の主な器官とその生理的機能について説明できる。加齢に伴う生理的機能の低下と、高齢者に多い疾患（慢性腎臓病、高血圧、認知症など）との関連について説明できる。

2）日本人の主な死因と、生活習慣や生活習慣病との関連について説明できる。

3）介護保険及び、介護保険の特定疾病について説明できる。高齢者に多い神経疾患や精神疾患の特徴について説明できる。

4）大脳の機能と関連させて、認知症の中核症状と、その主な原因疾患について説明できる。

5）公衆衛生学の観点から、日々直面する感染症と感染症対策について考え、対処法を説明できる。

■学位授与の方針（ディプロマポリシー）との関連

とくに「人と社会の理解力」を身につけてほしい。

■科目評価基準

レポート評価 10%＋スクーリング評価 or 科目修了試験 90%

■教科書・参考図書

【教科書】

日本ソーシャルワーク教育学校連盟編『最新社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座［共通科目］1 医学概論』中央法規出版、2021 年

（スクーリング時の教科書）

【各会場共通】上記教科書は持参してください。配付資料を用いながら、講義を進めます。

【参考図書】

1）辻一郎ほか著『シンプル衛生公衆衛生学 2023』南江堂、2023 年

2）『NHK きょうの健康』月刊誌 NHK 出版

3）岡田靖著『別冊 NHK 今日の健康・脳梗塞の再発を防ぐ』NHK 出版、2022 年

4）繁田雅弘著『別冊 NHK 今日の健康・家族のための認知症ケア』NHK 出版、2021 年

5）富野康日巳著『別冊 NHK 今日の健康・慢性腎臓病（CKD)』NHK 出版、2022 年

6）上妻謙監修『別冊 NHK 今日の健康・シニアの狭心症・心筋梗塞』NHK 出版、2020 年

7）田沼久美子ほか著『しくみと病気がわかるからだの辞典』成美堂出版、2007 年（3D ビジュアル DVD 付、2013 年）

スクーリング

■スクーリングで学んでほしいこと

社会福祉関連の職種で将来必要となる、正常な人体の基本的な構造と機能、身近な疾病（生活習慣病など)、高齢者の特徴と高齢者に多い疾患などについて理解することを学習目標とします。また、講義では国家試験問題やその類題の解説なども行う予定です。

■講義内容

回数	テーマ	内容
1	ライフステージにおける心身の変化と健康課題	ライフステージにおける心身の特徴、心身の加齢・老化、ライフステージ別の健康課題
2	健康および疾病の捉え方	健康と疾病の概念、国際生活機能分類（ICF）
3	身体構造と心身機能	人体部位の名称、器官系と臓器の役割
4	疾病と障害の成り立ちおよび回復過程	疾病の発生原因と成立機序
5	リハビリテーションの概要と範囲	リハビリテーションの定義、目的、対象、方法
6	疾病と障害およびその予防・治療・予後・リハビリテーション①	感染症、神経疾患、認知症、高次脳機能障害、脳血管疾患、心疾患、内分泌・代謝疾患、呼吸器疾患、腎・泌尿器疾患、消化器・肝胆膵疾患、骨・関節の疾患、血液・免疫・アレルギー疾患
7	疾病と障害およびその予防・治療・予後・リハビリテーション②	眼科疾患、視覚障害、耳鼻咽喉疾患、聴覚障害、平衡機能障害、口腔疾患、婦人科・産科、精神疾患、精神障害、発達障害、小児科疾患、肢体不自由、知的障害、高齢者に多い疾患、生活習慣病（総論)、内部障害、悪性腫瘍と緩和ケア
8	公衆衛生	公衆衛生の概要、健康増進と保健医療対策
9	スクーリング試験	

※オンデマンド・スクーリングでは、上記の講義内容と異なる場合があります。

■講義の進め方

上記講義内容にそって、配付資料を用いながら、講義を進めます。

■スクーリング評価基準

スクーリング試験 100%（持込可）。配付資料から出題します。

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：5〜10 時間）

事前に教科書に目を通して、用語に慣れておいてください。

レポート学習

■在宅学習 15 のポイント

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
1	ライフステージにおける心身の変化と健康課題 (第１章)	ライフステージにおける心身の特徴について理解し、ライフステージ別の健康課題について考える。 キーワード：遺伝子と環境、加齢と老化、生理機能の加齢変化、老年症候群	胎児期から青年・中年期までの身体および精神の成長・発達の特徴を知り、遺伝子と環境による影響を考える。 生理機能の加齢変化の特徴を知ることで、高齢者の特徴や高齢者が老年症候群に陥りやすいことを理解する。
2	健康および疾病のとらえ方 (第２章)	健康の定義を学び、疾病と健康寿命について考える。国際生活機能分類（ICF）の基本的枠組みを学ぶ。 キーワード：ICF、健康状態、生活機能低下	国際生活機能分類（ICF）の基本的考え方と概要を学び、WHO による健康状態と障害の分類を理解する。
3	身体構造と心身機能① (第３章)	人体各部位の名称と、人体を構成する器官系と臓器の名称を学ぶ。 キーワード：心臓、肺、脳、腎臓	医学の基礎用語、医学の基礎知識（器官、構造と機能）を学ぶ。 特に加齢変化の大きい腎臓や肺、免疫系の機能について考える。
4	身体構造と心身機能② (第３章)	人体を構成する器官系と臓器の機能（生理機能）を学ぶ。身体機能の調節について学ぶ。 キーワード：循環器系、呼吸器系、神経系、内分泌系、ホルモン、血液、免疫	医学の基礎用語、医学の基礎知識（人体の恒常性、身体機能の調節）を学ぶことで、健康状態や疾病を理解しやすくなる。
5	疾病と障害の成り立ちおよび回復過程 (第４章)	疾病の発生原因を、大きく外的要因と内的要因に分類して考える。 キーワード：免疫反応、抗原、抗体	多くの疾病における発生原因と、さまざまな病因により起こる生体反応について学ぶ。
6	リハビリテーションの概要と範囲 (第５章)	リハビリテーションと医療的リハビリテーションについて学ぶ。対象となる疾患・障害の概要を学ぶ。 キーワード：ADL、IADL、QOL、内部障害、高次脳機能障害、廃用症候群	リハビリテーションの概要を理解し、傷害の概要、リハビリテーションにおける障害評価について学ぶ。

7	疾病と障害① (第６章第１節)	主な感染症について学ぶ。 キーワード：新型コロナウイルス感染症、結核、日和見感染症、院内・施設内感染対策、ワクチン	感染症には、それぞれ症状だけでなく、感染経路、潜伏期間に特徴がある。さらに病原体の特性を知ることで感染予防対策を講じることができる。
8	疾病と障害② (第２節)	認知症の定義及び中核症状、行動・心理症状、代表的な認知症について学ぶ。難病、神経難病、脳機能性疾患について学ぶ。 キーワード：中枢神経、高次脳機能、パーキンソン病、筋萎縮性側索硬化症	原因疾患により、認知症の症状が違うことを理解する。 介護保険の特定疾病には、難病の特定疾患と重複している神経難病があるので、特に多いパーキンソン病などについて調べておくとよい。
9	疾病と障害③ (第３、４節)	脳血管疾患について学び、予防を考える。虚血性心疾患や高血圧などの心疾患について学ぶ。 キーワード：生活習慣病、脳出血、脳梗塞、狭心症、心筋梗塞、高血圧	日本人の死因の上位を占める脳血管疾患や虚血性心疾患は、生活習慣と深くかかわる生活習慣病の一つであり、生活習慣との関連や発症予防についても考えておこう。
10	疾病と障害④ (第５、６節)	内分泌器官からのホルモン分泌異常による代謝疾患について理解する。 高齢者に多い肺疾患などの呼吸器疾患について理解する。 キーワード：糖尿病、糖尿病の合併症、脂質代謝異常、慢性閉塞性肺疾患	糖代謝異常による糖尿病と、その治療や合併症について学ぶ。 脂質代謝異常、尿酸代謝異常などの代謝疾患について学ぶ。 呼吸器疾患と生活習慣について考える。
11	疾病と障害⑤ (第７、８、９節)	腎・泌尿器疾患について学ぶ。 消化器・肝胆膵疾患について学ぶ。 加齢に伴い増加する骨・関節疾患の特徴を理解する。 キーワード：慢性腎臓病、骨粗鬆症	急性腎障害、慢性腎臓病について理解する。 高血糖だけでなく、加齢によっても腎機能が低下することを理解する。 消化器系（肝臓など）の疾患（癌など）について学ぶ。
12	疾病と障害⑥ (第 10、11、12、13 節)	血液・免疫・アレルギー疾患を学ぶ。 加齢変化による眼科疾患と視覚障害について学ぶ。 耳鼻咽喉疾患、聴覚障害、平衡機能障害口腔疾患について学ぶ。 キーワード：嚥下障害、誤嚥性肺炎	白血球やリンパ球は、免疫を担う重要な作用を持つが、過剰な免疫反応をおこし、食物アレルギーなどの原因となることを理解する。
13	疾病と障害⑦ (第 14、15、16 節)	婦人科疾患と産科疾患について学ぶ。 発達障害、精神疾患、精神障害について学ぶ。 小児科疾患の特徴ついて学ぶ。 キーワード：発達障害、うつ病、統合失調症	子宮頸癌、子宮体癌などの定期検診について考える。 先天性疾患の原因には、環境要因と遺伝的要因があることを理解する。

14	疾病と障害⑧ (第 17、18、19 節)	高齢者に多い疾患について学ぶ。 生活習慣病の病態と予防について学ぶ。内部障害の概要を学ぶ。 悪性腫瘍と緩和ケアについて学ぶ。 キーワード：老化、老年症候群、廃用症候群、フレイル、フレイルサイクル、生活習慣病、メタボリックシンドローム、内部障害	加齢による生理的な機能の変化を学び、老年症候群との関連を理解する。 内臓脂肪の過剰蓄積によって生じるメタボッリクシンドロームについて理解する。
15	公衆衛生 (第 7 章)	公衆衛生の目的について理解する。 予防医学について学び、公衆衛生の保健対策、疾病対策について理解する。 キーワード：介護保険、特定健康診査	疾病の予防対策の一次予防、二次予防、三次予防について理解する。

■レポート課題

1 単位め	「TFU オンデマンド」上で客観式レポートに解答してください。
2 単位め	**【説明型レポート】** 下記①～⑥を全て説明しなさい(各 300 字を目安に計 1,800 字以上 2,000 字程度にまとめる)。 ①生活習慣病の定義、および生活習慣との関連について説明せよ。特に、死因に関わる重大な生活習慣病（がん、虚血性心疾患、脳血管疾患）については詳しく説明せよ。 ②加齢に伴う生理機能の低下について述べよ（腎臓など、特に低下が顕著な器官については詳しく)。 ③認知症およびその主な原因疾患と中核症状について説明せよ。 ④感染症と感染症対策（感染症法については簡単に、または省いても良い）について説明せよ。 ⑤高齢者に多い神経疾患について述べよ（認知症は③と重複するので省く)。可能なら、特定疾患や特定疾病に関係する疾患について調べてみる。 ⑥健康寿命を延伸するために、教科書『医学概論』pp.206 のフレイルサイクルにおいて、どの段階で介入するか例を考えよ。自分なりに考えることを評価するので、間違えてもかまわない。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

◆注意◆

1）論述式の【説明型レポート】は年度により問題が異なり、問題文も長いので、レポート用紙の「課題」欄には、「2026 年度の問題に解答する」というように、課題の年度のみを記入し、問題文は記入しないでください。「解答欄」にも、問題の番号のみを記入し、問題文は記入しないでください。

2）簡潔明瞭にまとめてください。定義を最初に記述し、詳細や例はその後に記述するとわかりやすくなります。

3）教科書や文献をそのまま写すのではなく、自分自身の言葉で、要点をまとめなおしてください。

■アドバイス

医学概論では、人体の構造と機能について学び、疾病や障害についての基本的な理解をします。ここで学ぶ医学の基礎知識は、広い範囲のごく一部をまとめてあり、簡略化されているが故に、分かり難くい面が避けられません。

テキストを、まず一通り最後まで目を通し、概略を理解したうえで課題に取り組んでください。機能と関連する疾病が別に記載されていたり、同じ疾病が何か所かに分れて記載されていたりすることがありますが、総合的に関連付

けられるような学び方が大切です。例えば、医学概論には、「介護保険の特定疾病」や、「難病の特定疾患」の記述はありませんが、関連する神経疾患などについては記載されています。他の科目で出てきたときに、「医学概論のあそこに記載されていた」と再度確認できるような学び方が大切です。レポートを書くにあたって、もし余力があれば、他の教科書で特定疾病や特定疾患について調べてまとめると良いレポートになります。他から関連した情報を集めるのは、後の仕事にも役にたちます。努力の評価を心がけますので、疑問について調べてみることをお勧めします。

【1 単位めアドバイス】

教科書をよく読み、「TFU オンデマンド」上で客観式レポートに解答してください。

【2 単位めアドバイス】

課題①：生活習慣病については 14 回目で簡単にふれています。具体的な疾病は 9 回目などに記載されています。他にも、②の腎臓の機能なども分散された記載が多いので、自分で関連させてまとめてください。

課題⑤：パーキンソン病は必ず記載してください。高齢者に多い神経疾患であり、進行してレビー小体型認知症を発症することが多いです。

課題⑥：例えば、「週一回の外出が寝たきり予防になる」という報告があります。悪循環のどこを断ち切る可能性があるか考える参考にしてください。内容的には、社会福祉法第 4 条と社会福祉法第 109 条を軸に、地域福祉の定義に照らしてまとめていくと良いでしょう。

■レポート評価の基準

1）2 単位めは説明型レポートなので、要点を簡潔に、自分の言葉でまとめる（教科書の丸写しはしない）。

2）例えば「Aについて説明せよ」と問われたら、「Aの定義」を記述する（Aを含む文ではないので注意する）。

科目修了試験

■評価基準

1）教科書などから学んだ知識が感じられる答案であること。一般常識や、仕事上で得た知識だけでは不十分なので注意する。

2）問いに対する答えが十分であれば、少々字数が不足してもかまわない。内容で判断するので、字数を正確に数える必要はない。内容や字数が不足しているときには、学んだ他のことと関連させて述べるとよい。